

9/8(木)

【トークライブ】私たちはどこへ行くのか

～阪神、中越、東北…つながるネットワーク…希望のリレー～

ゲスト：高瀬健三・吉本広志（兵庫県在住）／安達益枝・堀井とし子（新潟県在住）

久井田幾世・鶴水牧子（宮城県在住）

司会：増川信浩（新潟県出身）／福井里江（広島県出身）

リカバリーフォーラム初日、定番企画となった「トークライブ」が行われました。今年は、

【トークライブ】希望のリレー

《震災と、ピアサポート》をテーマに、

- 兵庫県在住の当事者の方2名
- 新潟県在住の当事者の方1名とサポーター1名
- 宮城県在住の当事者の方2名

をお招きして、トークライブ。それぞれの観てきたものを共有しました。

トークライブ開始の時間になると、

- 1995年（平成7年） 1月17日（火曜日）
- 2004年（平成16年） 10月23日（土曜日）
- 2011年（平成23年） 3月11日（金曜日）

それぞれの日を、写真と共に会場全体、無言で振り返り、静寂の時間が流れます。

阪神の地震から、実に16年が経過していることに改めて驚かされます。

そして、兵庫の方のお話を共有、参加者一人ひとりがその話を味わう時間をとり、次に新潟の方のお話を共有、味わう時間。宮城の方のお話を共有して、味わう時間。希望のバトンがステージとフロアで行き来していきます。このときに印象に残ったのは、「生まれ育った街が、好きなんです」という言葉。そこには、その土地で生活をする人の気持ちや想いがありました。そして、その土地で、大きな災害があったとしても、その土地でお互いに支えあう生活者の姿がありました。

次に、ステージ、フロアそれぞれ近くの方とグループになってお互いに湧き上がってくる想いを共有。そして、それぞれ意見を交換し合って、時間となりました。

突然の災害にどのように対処したか？ どうやって向き合ったか？

生活の中でどんな助け合いが行われていたか・・・ 体験者の方の生の声を聞き、そして自分ならを
考える時間になりました。

「お世話になりました。みなさんへ感謝をこめて、体験をお伝えします」

あるゲストの方の言葉も印象的です。ここにある経験者の知恵や経験をみんなで繋いでいけたらいいと思いました。希望のリレー。自分の経験が他の人の役に立ち、他の人の経験が自分の役に立つ。みんなで希望を繋いでいく… これからも、リカバリーについて、そして人の持つ力について、ともに考え、ともに深めていきたいと思えます。

《増川信浩（WRAPファシリテーター）》